

災害ボランティア活動の推進支援事業

実践発表

「熊本県災害ボランティア活動
～触れ合う・感じる・学ぶ・伝える～」

大阪府立中央聴覚支援学校

熊本県

災害ボランティア活動

触れ合う・感じる・学ぶ・伝える

大阪府立中央聴覚支援学校

◆大阪府立中央聴覚支援学校とは

本校は、明治33年に五代五兵衛翁が「私立大阪盲聾院」を創立したところから始まり、明治40年に大阪市に移管され、昭和23年に「大阪市立聾学校」と改称しました。平成28年4月の大阪府移管に伴い「大阪府立中央聴覚支援学校」と改め、今年で創立118周年を迎えます。

◆沿革

- 1900年 私立大阪盲聾院 開校
- 1907年 市に移管され、市立大阪盲聾院に改称
- 1919年 大阪市立盲聾学校に改称
- 1923年 大阪市立盲学校
- 1937年 大阪市立聾学校に分離
- 1948年 ヘレンケラー女史 来阪
- 2009年 大阪市立聾学校に改称
- 2017年 大阪市立聴覚特別支援学校に改称
- 府に移管され、大阪府立中央聴覚支援学校に改称

本校の取り組みの概要

安全・防災への意識を高め、組織的に継続して幼児・児童・生徒の安全を確保していくため、SPS (セーフティ・プロジェクト) 認証に向けたSPS-PJ (セーフティ・プロジェクト・イベント) を立ちあげた。

本校は、聴力に障がいのある幼児・児童・生徒が通う学校である。障がいの有無に関わらず、卒業後に共生社会の一員として社会に貢献でききる資質を育むことは重要である。災害ボランティアを通じて、「できた」経験を、本校または地域に還元するべく参加申込みを行った。

◆熊本災害ボランティア概要

年	概要
4月	SPS認証に向けてSPS-PJ (セーフティ・プロジェクト・イベント) を設立 平成29年度 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業 「災害ボランティア活動」に応募する
6月	h. 下田点検、避難訓練 (火災) 平成29年度 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業
7月	「被災ボランティア活動」に2校として選定される 熊本県、熊本県学校についての情報整理
8月	熊本県災害ボランティア活動 (8/1~8/4) 5名以上による活動報告 h. 光太郎氏による活動報告
9月	大阪SSO万人訓練 h. 下田、非常ベル点検 ・地域防災訓練参加
10月	学校協議会で報告
1月	避難訓練 (地震、津波) 成果発表会

◆活動の記録

8/1~8/4



熊本駅にて

気持ちを引き締め、スタート

◆熊本聾学校訪問



震災時の体験を傾聴



校内見学 震災対策が施されている



震災当時の状況や心境をうかがう



◆益城町での活動①
～くまもと女救の会のみなさんと～

協力しながら作業を進めている様子



支えあいセンター代表者会議参加

◆益城町での活動②
～九州キリスト災害支援センターのみなさんと～



集会所での触れ合い



コミュニケーションを取りながら
憩いのひととき



仮設住宅の方々が利用する保存水の搬入

◆熊本城視察



修復中の熊本城の様子



熊本市内の様子



瓦解した熊本城の外壁

◆ボランティア活動を通じて

- ①聴覚障がいがあることによるコミュニケーションの弊害は感じられなかった。
- ②仮設住宅のみみなさんや法人の方々、聴覚障がいのある生徒たちに触れ合い、心を開いてコミュニケーションをしているように感じた。

◆ 5 人に共通していたこと

- ①強い目的意識があった。
- ②自分に「できる」ことがあると信じていた。
- ③聴者に対して、臆することなく「自分」から距離を縮めにくく姿勢があった。

上記の3つは、障がいの有無に関係ない。

◆ 今後の課題

- 地域との連携を密に行い、情報の共有を行う。
- 津波、火災が起きたときの実践的な取り組みまで視野を広げ、実際に行われた工夫や講じている対策について学び、いかなる状況にも対応できる学校作りをめざしていく。

災害ボランティア活動の推進支援事業

実践校 成果報告

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

大阪府立三国丘高等学校 定時制の課程

大阪府立福泉高等学校

大阪府立中央聴覚支援学校

大阪府立堺工科高等学校校定時制課程

I. 取組みの概要

- ・2011年3月11日の「東日本大震災」を機に、本校で「東北支援プロジェクト」を立ち上げた。
- ・土曜講座「堺学」の開講科目である「打ち刃物」と「お線香」を用いた支援を続けており、被災地に生徒が作った「包丁」と「お線香」と「義捐金」を寄贈している。
- ・今回の取組みは、従来通りの寄贈と被災地の復興状況の見学及び被災者の方々との交流、本校生徒が製作した「バイオディーゼル発電機」の有効な活用方法についての意見交換や、津波で校舎が流され、仮設のプレハブ校舎で一生懸命に勉学に励んでいる宮城県農業高等学校との交流と新たな「コラボ線香」（4月に同校より送ってもらった校内の八重桜の花びらを乾燥させて練り込み本校生徒が線香を作ったが、今回は同校の薔薇の花びらを練り込んだ線香）の打ち合わせのための訪問である。

II. 年間を通じた取組みの概要

月	取組み内容
7月	10（月）・11（火）被災地の状況説明・事前学習（DVD・写真等） 18（火）宮城県農業高校とのコラボ線香についての意見交換
8月	27（日）学区説明会において活動報告（DVD・写真パネル展示）
9月	30（土）～12月9（土）被災地に寄贈する線香の製作
10月	14（土）～12月9（土）被災地に寄贈する刃物の製作 14（土）・15（日）堺まつりにおいて活動報告（DVD・写真パネル展示）
11月	11（土）・12（日）さかい線香まつりにおいて活動報告（DVD・写真パネル展示） 18日（土）文化祭において活動報告（DVD・写真パネル展示）
12月	3日（土）中学生体験入学において活動報告（DVD・写真パネル展示）
2月	4日（日）ゆめ・チャレにおいて活動報告（DVD・写真パネル展示）

III. 被災地での活動の概要

1 概要

おもな行先	宮城県名取・東松島・気仙沼・陸前高田市/岩手県釜石市
参加人数	生徒：3名 ・ 引率：1名
期 間	平成29年7月31日～8月3日（3泊4日）

2 行程

時刻	月日 (1日目) 7月31日	(2日目) 8月1日	(3日目) 8月2日	(4日目) 8月3日
7		起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食 ホテル発
8	堺東集合 伊丹空港着 伊丹空港発 ANA735便	ミーティング ホテル発 東松島市震災復興 伝承館	ミーティング ホテル発 宮城県立気仙沼向 洋高校見学	釜石市役所訪問 釜石市長に「線香」 寄贈
9				今後の支援（バイ オディーゼル発電 機等）の打合せ
10	仙台空港着	東松島市教育委員 会「包丁」寄贈	気仙沼市役所訪問 「線香」・「包丁」 寄贈	
11	昼 食 閑上地区 訪問			
12		昼 食	昼 食	昼食
13	宮城県農業高校 交流・意見交換 「線香」・「包丁」 寄贈	女川町役場 「線香」寄贈	陸前高田市立気仙 中学校 奇跡の一本松 道の駅高田松原ト ピック45等の震災 遺構見学	釜石市内 被災地視察
14				
15		石巻市立大川小学 校跡地訪問 生徒作「線香」 お供え	生徒作「線香」 お供え 大槌湾被災状況 見学	いわて花巻空港着 いわて花巻空港発 JAL2186便 伊丹空港着
16	名取市役所・名取 副市長「線香」・ 「包丁」寄贈			
17		ホテル着 夕食・入浴 ミーティング	ホテル着 夕食・入浴 ミーティング	
18	ホテル着			
19	夕食・入浴			
20	ミーティング			堺東着 解散
21				
22	就寝	就寝	就寝	

IV 被災地でのボランティア活動などの取組み

- ・生徒が想いを込めて作製した「包丁」と「線香」の手渡しをするために被災地を訪問した。
- ・被災した各市役所を訪問し、今後の支援についてや「バイオディーゼル発電機」の有効な活用について意見交換をおこなった。
- ・津波で校舎を流されて、プレハブの仮校舎で一生懸命に頑張っている「宮城県農業高校」の生徒との交流は、本校生徒にとって非常に良い刺激になった。
- ・震災遺構を見学して、震災を決して風化させないことを全員が決意した。
- ・生徒は出会ったすべての人に感謝され、たくさんの方々の笑顔に出会い、本当に満たされた表情をしていた。ボランティアに対する気持ちと自己有用感を高めることができた。

V 事業成果の周知に関する取組みの概要

- 全校集会等において生徒による成果発表。
- 学校ホームページ掲載。
- 新聞報道を通しての発信。
- 地域イベントにおいてDVD放映及びパネル展示並びに地域の地場産業団体への発信。
- 大阪府内の教員に向けての講演等。
- 各種ボランティア団体への全国規模の発信。

VI 取組みの成果と今後の課題

- 【取組みの成果】
- 被災地の方々との交流により、地震や津波に対する知識や教訓を得ることができ、校内はもちろん地域に向けても情報を発信することができた。
 - 地域の伝統地場産業による復興支援なので、地域の方々と防災に関する教訓等を共有することができた。
 - 今まで自信を持つことができなかった「定時制」の生徒が実際に被災地を訪問することにより、ボランティア精神が芽生え、感謝されることにより、「自己有用感」が高められた。
 - 本校及び周辺は海拔10mに位置するので、津波に関する知識は、本校の防災教育にとって非常に役立った。

【今後の課題】

- 今後も支援を続けていくために、今まで以上に生徒と共に被災地を訪問しなければならないと痛感した。多くの生徒に被災地の現状を理解させることが課題である。



大阪府立三国丘高等学校校定時制の過程

I. 取組みの概要

- ・三国丘高等学校放送研究会では、テーマを決めて学習、取材をして積極的にメディアに情報発信を行っている。今年度は地震災害とボランティアに取り組むことをめざし、今回の企画に応募した。
- ・取組みでは、2度にわたる震度7の大地震が発生した熊本地震の現状と復興を取材し、ボランティアを行なう企画について、メディアに向けてプレスリリースを提供するなどの情報発信を行った。
- ・参加生徒自身にとって熊本の魅力、文化を知り、これからも熊本の応援団になるものであった。

II. 年間を通じた取組みの概要

月	取組み内容
5月	5月上旬 熊本地震ボランティア企画を生徒に通知
6月	6月下旬 熊本地震ボランティア参加メンバー決定
7月	7月20日 健康診断 7月下旬～参加者ミーティング（熊本地震について）
8月	8月29日～参加者ミーティング（ボランティアについて）
9月	6回のミーティング（訪問先・交流先の情報と交流準備）
10月	10月1日～4日 熊本地震ボランティア(実地) 3回の事後ミーティング（校内発表の準備）
11月	11月20日 11月24日発表の直前ミーティングを予定 11月24日 全校生に向けて、本校多目的室で報告会を行う予定（約30分間）

III. 被災地での活動の概要

1 概要

おもな行先	熊本県熊本市、上益城郡益城町
参加人数	生徒：3名 ・ 引率：1名
期 間	平成29年10月1日～10月4日（3泊4日）

2 行程

時刻	月日 (1日目) 10月 1日	(2日目) 10月 2日	(3日目) 10月 3日	(4日目) 10月 4日
7時	7:20 新今宮駅集合 8:35 新大阪駅発	7:00起床・朝食 8:00出発 午前中、益城町の被災現場を現地スタッフと巡る。ご高齢の被災者宅を訪問し、当時のお話を伺う。	7:00起床・朝食 8:00出発 熊本市東区で半壊家屋からの荷物搬出、ごみ出しボランティア（終日） テレビ熊本から取材を受ける。	8:00起床・朝食 9:00出発 木山仮設住宅集会所で被災された方々の集いにお菓子の詰め合わせとメッセージを添えたプレゼントを渡し、お話の相手となってお話を聞くボランティア（午前中）
12時	11:43 熊本駅到着 12:00 昼食 13:00 熊本城ガイドと熊本城巡り（被災状況を知る） 15:00 ごみ拾い 16:00 防災センター 18:00 宿泊先のキャッスルホテルの総務部から地震時の対応と再営業までの道のりを伺う（1日目滞在）。 19:00 夕食・ミーティング 22:00 就寝	12:00 復興屋台村で昼食 13:00 ホテルエミナース総支配人から地震当時の対応を伺う（2日目3日目滞在） 15:00 県庁訪問。地震時の行政からの危機管理体制を聞く。 16:00 東稜高校訪問 18:30 夕食・ミーティング 19:30 熊本工業高校定時制を訪問 22:00 ホテル着 23:00 就寝	12:00 昼食（弁当） 12:50 自衛隊見学 災害派遣についてのヘリコプター部隊の話を伺い、安部総理大臣も乗られたという巨大な輸送用ヘリコプターに試乗。 17:50 ホテル着 18:00 夕食・ミーティング	12:00 益城町仮設役場で昼食（弁当） 15:20 阿蘇熊本空港着 空港待合室で最終ミーティング 16:30 阿蘇熊本空港発 17:40 大阪伊丹空港着、天王寺駅利用の生徒は解散（1名） 19:00 南海難波駅解散（2名）
23時				

IV 被災地でのボランティア活動などの取組み

- ・1日目に熊本城ガイドと熊本城の被災現場を取材し、できることとして熊本城周辺のごみ拾いを行なう。3日目は朝から終日半壊家屋から荷物搬出、ごみ出しを手伝った。
- ・4日目は仮設住宅の集会室を訪問し高齢の女性の集いに参加し、お菓子入りの励ましメッセージをプレゼントするなど和やかにボランティアを実施。高齢の女性からは「ラブレターもらったよ。」などと笑いのたえない集いとなった。
- ・生徒は一生懸命ボランティアに励み、その姿はテレビ熊本で10月6日（金）19:00～放映された。

V 事業成果の周知に関する取組みの概要

- ・11月2日（木）の本校文化祭において今回の災害ボランティアで撮影した熊本の様子について上映会を実施し、堺在住の地域住民の方々が約20名訪れ鑑賞した。
- ・11月24日（金）の本校後期避難訓練において今回の熊本地震ボランティアについて報告会を開催予定。

VI 取組みの成果と今後の課題

- ・生徒にとって3泊4日の11に及ぶ行事を元気にこなし、その後もSNS等で交流が続いている。
- ・参加生徒は今後も積極的にボランティアに参加する意欲にあふれている。
- ・地震災害と復興支援の学習と経験は今後の防災リーダーとしての活躍も期待される。
- ・今回の事業は非常に濃密な内容であったが、これを一過性に終わらせることなく今後とも災害についての関心を持ち続ける取組みが求められる。

大阪府立福泉高等学校

I. 取組みの概要

震災の「怖さ」を実感し、復興のための「自助・共助」の大切さを学ぶとともに、今後起こるであろう大地震の備えについて考えることを目的とする。

- 益城町役場、キャンナス熊本（ボランティア団体）と行動を共に、以下の項目について取り組む。
- ボランティア活動を通し、熊本地震の被災状況とその後の避難生活について理解する。
 - 広域にわたる被害の深刻さ、被災された方の生の声を見聞きし、まだまだ進んでいない復興に対する現在の課題及び、今後の熊本ボランティアについての必要性について考える。
 - ボランティア体験をもとに、南海トラフ大地震に対する自らの備えと、生徒や地域住民への啓発運動を行う。

II. 年間を通じた取組みの概要

月	取組み内容
6月	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 事前指導①熊本地震の被災状況とその後の避難生活についての勉強会 ▪ 事前指導②私たち（生徒）のできる活動についての勉強会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 事前指導③キャンナス熊本（ボランティア団体）との交流 ▪ 事前指導④益城町との交流
8月	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 8/7～8/9 災害ボランティア派遣 ▪ 事後指導①感想・振り返り
9月	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 全校集会にて報告会 ▪ 文化祭での展示準備
10月	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 文化祭での展示及び発表会
12月	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 近隣、小中学校での発表会予定

III. 被災地での活動の概要

1 概要

おもな先行	熊本県上益城郡益城町
参加人数	生徒：5名 ・ 引率：1名
期 間	平成29年8月7日～8月9日（2泊3日）

2 行程

月日 時刻	(1日目) 8月7日(月)	(2日目) 8月8日(火)	(3日目) 8月9日(水)
7:00		起床	起床
8:00	なんば集合 連絡バスで空港へ	朝食	朝食
9:00		ボランティアセンターにてオリエンテーション 益城町テクノ仮設住宅にて支援活動	ボランティアセンターにてオリエンテーション 益城町テクノ仮設住宅にて支援活動
10:00	伊丹空港出発 (10:55発)		
11:00	熊本空港到着 (12:10着)	昼食	
12:00	昼食	益城町テクノ仮設住宅にて支援活動 (車いす用道路整備・草抜き等)	
13:00	タクシー利用で震災遺構見学	益城町テクノ仮設住宅にて支援活動 (集会所清掃・仮設住宅在住の子どもたちとの交流)	昼食
14:00			活動の振り返り
15:00	益城町役場訪問 震災状況学習		仮設住宅にて ・キャンナス熊本（ボランティア団体）代表の講話 ・熊本城視察
16:00		ホテル到着	
17:00	ホテルチェックイン	夕食	
18:00	夕食	入浴	熊本空港着 熊本空港出発 (17:25発)
19:00	入浴	ミーティング	伊丹空港到着 (18:30着)
20:00	ミーティング		連絡バスでなんば なんばにて解散
21:00	就寝	就寝	
22:00			

IV 被災地でのボランティア活動などの取組み

<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 震災遺構見学、益城町役場訪問、イベント補助（仮設住宅）、片付け・掃除・ゴミだし等（被災地）、戸別訪問とお手伝い・入居者インタビュー（仮設住宅）、熊本城視察等 <p>生徒の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 写真や話で聞いていたことを目の当たりにし、自分の事のように、片付けや掃除またイベント活動に取り組んだ。被災遺構の見学や、仮設住居入居者、キャンナス熊本代表の話聞いた時には、涙を流す場面もあった。

V 事業成果の周知に関する取組みの概要

- 全校集会にて報告
2学期の始業式に、スライド等をまじえ、報告会を実施した。
- 文化祭
展示物を作成し、熊本の現状と、今後の備えについて発表した。
- 近隣小中学校発表会
展示パネルも持ち込み、発表会を実施する予定。

VI 取組みの成果と今後の課題

- 1年生で初めて参加する生徒、3年生で2度目（1年生で東日本大震災【気仙沼】ボランティア）となる生徒もいた。それぞれの思いを持ちながらの今回の参加となった。震災復興にむけた住民の思いとボランティア活動の大切さを身に染みて感じた。
- 「自助・共助」、「継続したボランティア活動」、「今後起こるであろう大震災に向けた備え」の必要性等、学ぶものはたくさんあった。これらを、まずはボランティアに参加した生徒たちで共有し、今後、学校の生徒・保護者・地域住民の方に、これらについて一人でも多く、知り、また行動していただけるよう啓発活動に取り組む。

VII 文化祭時の展示パネル



大阪府立中央聴覚支援学校

I. 取組みの概要

安全・防災への意識を高め、組織的に継続して幼児・児童・生徒の安全を確保していくために、次の3点に重点を置き、災害ボランティア活動に取り組んだ。

- ・被災地で行われている効果的・効率的・実践的な支援方法の知識や技術を学ぶ。
- ・自助・共助・公助について学び、被害を減らす方法や支援者としての関わり方について学ぶ。
- ・安全で安心な社会づくりに貢献する力を身につける。

II. 年間を通じた取組みの概要

月	取組み内容
4月	・SPS（セーフティ・モーションスクール）認証に向けてSPS-PJを設立 ・平成29年度 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業「災害ボランティア活動」に応募する
5月	・パトライト点検、避難訓練（火災）
6月	・平成29年度 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業「災害ボランティア活動」に実施校として選定される
7月	・熊本地震、交流塾学校についての情報整理 災害ボランティアの心得やめあて等の確認を含めた事前学習
8月	・熊本県災害ボランティア活動（8/1～8/4） ・生徒による活動報告
10月	・引率教員による活動報告 ・インタビュー形式による活動伝達（近隣大学教授・学生来校）
11月	・大阪880万人訓練 ・パトライト、非常ベル点検 ・地域防災訓練参加
1月	・避難訓練（地震、津波） ・活動報告会

III. 被災地での活動の概要

1 概要

おこな行先	熊本県 益城町
参加人数	生徒：5名 ・ 引率：2名
期 間	平成29年8月1日～8月4日（3泊4日）

2 行程

月日 時刻	①（1日目） 8月1日	②（2日目） 8月2日	③（3日目） 8月3日	④（4日目） 8月4日
8:00	新大阪駅中央改札集合	起床・朝食・出発準備 宿舎出発	起床・朝食・出発準備	起床・朝食・出発準備
9:00	出発式 新大阪駅出発(8:59)	益城町到着 ボランティア活動開始	宿舎出発	熊本城視察
10:00			益城町到着 ボランティア活動開始	熊本駅出発(11:30)
11:00				
12:00	熊本駅到着(11:59)・昼食	休憩・昼食		車中・昼食
13:00	熊本市内出発		休憩・昼食	
14:00				新大阪駅到着(14:48) あいさつ・解団式・解散
15:00	熊本聖学校到着			
16:00	スライドを使用した自校紹介と交流	ボランティア活動終了 益城町出発		
17:00	熊本聖学校出発	帰舎 ホテル従業員からの講話	ボランティア活動終了 益城町出発	
18:00	宿舎到着（避難訓練実施） 宿舎最上階から熊本市内展望	休憩・夕食・入浴	帰舎 休憩・夕食・入浴	
19:00			ホテル館長および従業員への質疑・応答	
20:00	夕食・入浴			
21:00	振返り及び翌日の事前指導	振返り及び翌日の事前指導	振返り及び翌日の事前指導	
22:00				
宿 舎 名 (TEL)	水前寺共済会館7階77 (096-383-1281)			
所 在 地	熊本市中央区水前寺1-33-18			

IV 被災地でのボランティア活動などの取組み

1 日目

熊本聾学校では、自己紹介、学校紹介、学校見学、交流を通して、震災の体験を聞き、実際に困ったことや感じたことを学ぶことができた。

2 日目

益城町に拠点をおく、「くまもと友救の会」の皆さんとともに活動を行った。午前は、仮設住宅の方々とともに、空き地の草刈りを行い、休憩時間には集会所にて交流を行った。まだまだ復旧は進んでおらず、活動が継続して行われている現実を現地の方々から教えていただくことができ、生徒たちもより一層真剣に話を聞くことができた。

午後には、本部に場所を移して、支えあいセンターの各代表者が課題や今後の展望について打ち合わせしている様子を見学した。普段表には見えてこない各団体の抱えている運営上の課題や現状を知ることができ、貴重な時間となった。

3 日目

益城町に拠点をおく、九州キリスト災害支援センターで活動を行った。午前は、仮設住宅の方々とは交流しながら絵描きやお茶を楽しんだ。交流の中で、高齢者の方々が仮設住宅での暮らしで、困っていることを聞き、メディアでは伝えきれていない現状を知ることができた。

午後には、トラックに積んだ非常用のペットボトルを、皆でリレー方式で搬入した。渡す時と受け取る時のポイントを教えていただき、より一層効率よく作業を行うことができた。作業を通じたコミュニケーションや連携ができ、充実した活動となった。活動が終わった後には、自治会長の自宅を見学させていただいた。地震によって家が全壊し、倉庫として利用していた建物をリフォームされていた。説明を受ける中で、「震災を受けた当事者にとって瓦礫は存在しない。その方々にとっては宝物」と聞き、生徒たちの顔が引き締まる様子が見られた。

4 日目

熊本城の視察を行った。復旧作業の最中であり、一部の壁や石垣が崩れている光景を目の当たりにし、地震の脅威を改めて認識した。最後に、ガイドから「熊本城は、熊本市民のシンボル。熊本城が復旧していけば皆も元気になる。」と聞き、地元を愛し、歴史を重んじている熊本の方々の思いを推し量ることができた。活動終了後は熊本駅に向かい、お世話になったタクシーの方に挨拶を行った後、帰阪した。解団式での生徒たちの表情は遅しく、多くのことを学んだ様子であった。

V 事業成果の周知に関する取組みの概要

安全・防災への意識を高め、組織的に継続して幼児、児童、生徒の安全を確保していくために、以下の方法で伝達を実施した。

- ・生徒たちによる活動報告
- ・引率教員による活動報告
- ・近隣大学教授への活動伝達
- ・学校協議会での活動報告
- ・HPでの周知

VI 取組みの成果と今後の課題

【取組みの成果】

- ・マスメディアの情報だけでは得ることのできない、現地の方々の胸中や被災地域の課題を知ることができた。物理的な側面だけでなく、精神面への配慮についても、学習することができた。
- ・被災校が震災後に取組み始めた、防災における安全上の取組みを知ることができた。

【今後の課題】

- ・今回の災害ボランティアでは、地震に関する事例や対策について重点的に学習を行い、学びを深めた。
津波、火災が起きたときの実践的な取組みまで視野を広げ、実際に行われた工夫や講じている対策について学び、いかなる状況にも対応できる学校作りをめざしていく。